

自立活動アセスメントシートVer.3 (6 コミュニケーション) 記入例 H30.4.2 発行

※ 各内容で課題設定の必要、指導上の留意点があれば該当の枠内を塗りつぶし、概要のチェックと具体的な実態を記入する

(1) コミュニケーションの基礎的能力

→ 障害の種類や程度、興味・関心等に応じて、表情や身振り、各種の機器などを用いて意思のやりとりが行えるようにするなど、コミュニケーションに必要な基礎的な能力を身に付けること

内容		実態	
表出	いろいろな刺激に表情や身振り、しぐさで表す	◎・○・△・□	なにに・どのように 姿勢変換をすると大きく目を見開く、丸く抱っこされると口元が緩む、大きな音がすると泣く
	人とのかわり方で表情や身振り、しぐさで表す	◎・○・△・□	どのように 家族の誰かが近くにいるとはしゃぐ、好きな先生がいると抱きつく
意思や要求の伝達	意思や要求があるときの表現がある	◎・○・△・□	発声・表情・視線・身体の動き等 (口をすぼめる、相手の目を見る) 具体的な表現(「や」と言う、「もい」と言う) 意思や要求の表出される場面 (給食、シーツプランコをしているとき)
	様々な行動をコミュニケーション手段として適切に活用できる	◎・○・△・□	どのように 持ち主の了解を得ないで相手が使っている物を無理に手に入れようとすることが多い、自分ではできない時に相手の腕を優しく持つ等してやってほしいことを伝えられることがある
働き掛け	理解できる働き掛けがある	◎・○・△・□	言葉掛け・指差し・身振り・身体への接触等 相手が指差したものを意識できれば場面に応じた行動ができることが多い、身体接触で動作の方向を促すと食器を持つなど具体的に動けることが多い
指差し模倣相互関係	教師が指差したものを見る	◎・○・△・□	どのように 相手が指差したものや方向を見ようとしない、目の前のものであれば教師が指差すと見る
	簡単な動作の模倣をする	◎・○・△・□	どのように 目の前で手を挙げると同じようにすることが多くなった、「いただきます」の動作を示すと両手をぱちんと合わせるようになってきた
	教師とやりとりをする	◎・○・△・□	どのように 相手に意識が向いていることが少ない、やりとり遊びで相手の顔を見るが増えてきた
	ものを介して教師とやりとりをする	◎・○・△・□	どのように 相手が「ちょうだい」と両手を合わせて伝えるとものを手渡せることがある、ボール遊びでボールを返すことが数回できるようになってきた

(2) 言語の受容と表出

→ 話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を受け止めたり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出することができるようにすること

内容		実態	
意思の表出	手段を用いて応答できる	◎・○・△・□	表情・発声・視線・具体物等 活動をやりたくない時は目を閉じることが多い、「やりたい?」と聞くとまばたきが多くなりその活動をすると喜ぶ
	身振りなどで要求を伝えられる	◎・○・△・□	どのように 嫌い・やりたくない時は首を振って伝えるようになってきた、要求があれば身体の前で手を合わせて頭を下げる人が多い
	要求の対象を選択できる	◎・○・△・□	どのように 具体物を2つ目の前に用意すると考えて選んでいるよりは偶然目に入った方に手を伸ばしているように見える、活動を3つ写真で示すとやりたいことを選べるようになってきた
	いろいろな意味の指差しをする	◎・○・△・□	どのように 注意を引く・驚きを伝えるなどいろいろな意味の指差しが増えてきている、相手の指差しを見ることはあるが自分からの指差しはあまり見られない
	身振りやサイン等で要求を伝えられる	◎・○・△・□	どのように 給食の場面で「おかわり」「おしまい」をサインで伝えられるようになってきた、「もう一度やりたい」と決まったサインが大体出せる
	シンボルや文字で要求を伝えられる	◎・○・△・□	どのように 20個くらいのシンボルを組み合わせると身近なことは要求できる、「はい」「いいえ」が使い分けられるようになってきた
呼名に反応する	呼名に反応する	◎・○・△・□	発声・表情・身体の動き・緊張・運動の停止・呼吸の変化・眼球の動き等 呼名されるとタイミングよく声が出る、呼名されると喜び笑顔が出たり挙手したりすることが多い
	身近な人の名前が分かる	◎・○・△・□	どのように 母が近くにいる時に「母さんはどこ?」と聞くと母の方を見ることがある、友達の名前カードをその相手に大体渡せる

言葉の理解	写真や絵に示された物の名前をいくつか知っている	◎・○・△・□	どのような 具体物の名前は分かるが写真になると分からなくなる。いつも見る動物の絵本の絵を見て動物の名前が5つ言えるようになった
	動きを表す言葉をいくつか知っている	◎・○・△・□	どのような 「待つ」と「持つ」は言葉掛けに応じて行動する。「靴を履く」など身支度に関わる言葉掛けに応じて行動できることがある
	禁止の言葉を理解している	◎・○・△・□	どのように 「ダメ」の言葉掛けだけで行動が止まることはない。「ダメ」と伝えようと行動を止めることが増えてきた
	「おしまい」が分かる	◎・○・△・□	どのように 「おしまい」と伝えてもなかなか活動を止められない。「おしまい」と伝えと道具の片付けが始められるようになった
	非言語的な方法で言葉が理解できる	◎・○・△・□	身振り・表情・具体物・場面設定等 エプロン・三角布・マスクを準備し身に付けるよう仕草を示すと身支度が整えられるようになってきた。ほうきを見せると掃除の準備をしようとする
発語機能	呼吸を調整できる	◎・○・△・□	楽な呼吸・息を出せる・息を止める等 筋緊張の調整が難しく呼吸が浅くなりがちである。意識して息を長く出せるようになってきた
	発声ができる	◎・○・△・□	どのように 息を吸いながら声を出していることがある。小さな声でとぎれることが多い
	口腔周辺を動かせられる	◎・○・△・□	口唇・舌・顎・頬等 舌を上下・左右に動かし難い。頬を膨らませたりすぼめたりするのが難しい
	単音を発音できる	◎・○・△・□	五十音、濁音、半濁音、拗音、促音、長音 タ行音の発音が難しい。唇を閉じられるがバ行音を発音しない。濁音の発音に苦手感がある
	明瞭に言葉を発音・発語、発話できる	◎・○・△・□	どのように 「せんせい」が「てんてー」になるなどしている。一気に話そうとして小声になり聞き取りにくいことが多い
	流暢に言葉を発音・発語、発話できる	◎・○・△・□	どのように 4語以上の復唱はたどどしくなる。拗音が入ると言葉につまることが多い。力が入ると言葉が出にくかったりつまったりすることがある
	意味のある言葉を表出できる	◎・○・△・□	どのように 言葉を言うが伝えたいことが分からないことが多い。読める文字があるが自分から言葉を言わない
	音を弁別できる	◎・○・△・□	どのように 「きょう」を「こう」「そう」、「そ」を「と」等聞き間違えていることがある。濁音を清音に聞き取っていることが多い

(3) 言語の形成と活用

→ コミュニケーションを通して、事物や現象、自己の行動等に対応した言語の概念の形成を図り、体系的な言語を身に付けることができるようにすること

内容		実態	
音声	場面に応じて音声で表現できる	◎・○・△・□	どのように 給食で周りの促しに応じて「おいしい」と言うことがある。近くに来てほしい時は「お」と言う
言葉の理解	文字や文章を読んで理解できる	◎・○・△・□	どのように 文字や文章を読んで理解することに極端な困難がある。100字程度の文章は内容を読み取れる
	抽象的な言葉を理解して表現できる	◎・○・△・□	どのように 体験したことのまとめの文末が大体「楽しかった」になっている。何にでも「おもしろくなかった」と一言で表現することが多く「何が」や「どう」を表現することが難しい
文の習得	単語で伝えられる	◎・○・△・□	どのように 何かが欲しい時に「お茶」など単語で伝えられることが多くなった。盛んに声を出す単語はなかなか出ない
	言葉を組み合わせて表現できる	◎・○・△・□	どのように 絵カードを使えば「赤い・花」や「黄色い・花」など2語を組み合わせて表現できる。身近な名詞が言えるので名詞の後に「ください」を言うよう繰り返し促している
	文章で表現できる	◎・○・△・□	どのように 簡単な状況が描かれた絵カードの内容を2～3語文で表現できるようになってきた。いつ・どこ・誰を考えて経験した出来事を1～2文で表現できることがある
	多くの語彙で的確や正確に思いや考えを伝えられる	◎・○・△・□	どのように 振り返りや感想の内容が「よかった」等ほぼ同じ表現を繰り返している。相手の質問に対して語彙が十分でなく答えたいことを的確に表現できずに落ち込むことが多い

(4) コミュニケーション手段の選択と活用

→ 話し言葉や各種の文字・記号、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択・活用し、他者とのコミュニケーションが円滑にできるようにすること

内容		実態	
絵やシンボル等	写真や絵カードを活用できる	◎・○・△・□	どのように 絵カードを選びコミュニケーションができるようになってきた。複数の人に写真を渡してやりたい活動を伝えられる
	コミュニケーションボードを活用できる	◎・○・△・□	どのように 「はい○」と「いいえ×」の2択をボードを使って伝えるようになってきた。自分の気持ちややりたいことを絵でボードにまとめ伝えたいことを指差してコミュニケーションをとっている
身振りやサイン等	身振りやサイン等を活用できる	◎・○・△・□	どのように 身振りを使えば相手に自分の意思を確実に伝えられることが多くなった。サインをコミュニケーションに積極的に活用するようになってきた
文字	文字の書かれたカードを活用できる	◎・○・△・□	どのように 文章カードを使って自分の意思を伝えられることが増えた。文字カードを組み合わせて自分の意思を伝える
	文字板を活用できる	◎・○・△・□	どのように 文字板の活用を始めた。透明文字板の視線選択で数人とコミュニケーションを取る
	筆談で伝えられる	◎・○・△・□	どのように メモ帳をコミュニケーションに活用している。相手に伝わりにくい時は携帯用のボードに文字を書いて意思を伝えている
機器	コミュニケーション支援機器を活用できる	◎・○・△・□	スイッチ・VOCA・キーボード型機器等 音声の出る押しボタン式のスイッチを活用し始めた。8分割のキーボード型機器で意思を伝えている
選択と活用	コミュニケーション手段を自己選択・自己決定できる	◎・○・△・□	どのように 日常ではキーボード型機器を使用しているが朝の会の進行は音声の出る押しボタン式のスイッチを使用して使い分けている。普段は補聴器で音声を聞き取っているが騒音が大ききところでは自分から筆談を依頼するようになってきた

(5) 状況に応じたコミュニケーション

→ 場や相手の状況に応じて、主体的にコミュニケーションを展開できるようにすること

内容		実態	
状況に応じたコミュニケーション	相手の立場や気持ちに応じた行動や言葉づかいができる	◎・○・△・□	どのように 相手が誰でも友達のような言葉づかいをしてしまう。相手が嫌がる言葉を何度も話してしまう
	周りの状況に応じたふさわしい言葉づかいができる	◎・○・△・□	どのように 発表の場面で丁寧な言葉づかいをすることが難しい。何にでもすぐに「分からない」と言ってしまう
	周りの状況に応じた声の大きさの調節や話し方ができる	◎・○・△・□	どのように 部屋の大きさに関わらず大きな声で話してしまう。相手に関わらず早口や小声で話す。静かな場所でも大きな声で話してしまう
	相手の会話の内容を自分でまとめながら聞ける	◎・○・△・□	どのように 5語文以上になると最初に言われたことを忘れがちである。相手の話に集中できず何を言われたかすぐに忘れてしまう
	分からないときに聞き返してコミュニケーションを展開できる	◎・○・△・□	どのように 分からなくてもすぐにうなずいてしまう。分からないことを近い人であれば聞き返せるようになってきた
	相手の表情に注目してコミュニケーションを展開できる	◎・○・△・□	どのように 相手の顔に視線を向けないことが多い。相手のことをよく見て話すようになってきた

その他

その他には、上記に内容が示されてなく、「6コミュニケーション」…場や相手に応じて、コミュニケーションを円滑に行うことができるようにする観点からの内容、であると考えられる記入が必要な実態を書く。

□□センターST訓練(1回/1か月)発音訓練を受けている